

第 20 期（平成 27 年 3 月期）事業報告書

平成 26 年 4 月 1 日より平成 27 年 3 月 31 日まで

I 組織運営

1. 理事会・社員総会の開催

本機構の円滑な運営を図るため、平成 26 年度は下記のとおり理事会及び社員総会を開催した。

◆ 第 1 回理事会

日程：平成 26 年 6 月 4 日（水） 場所：航空会館（東京都港区）

内容：第 19 期（平成 26 年 3 月期）事業報告及び決算報告の承認
新規入会会員の承認

平成 26 年度循環型社会形成推進功労者表彰受賞者の決定等

◆ 第 2 回理事会

日程：平成 26 年 6 月 24 日（火） 場所：ホテルフロラシオン青山（東京都港区）

内容：理事候補者の決定

内閣府への事業報告等定期提出書類の承認

2014 環境フォーラム開催計画の決定

代表理事の職務執行状況報告等

◆ 定時社員総会

日程：平成 26 年 6 月 24 日（火） 場所：ホテルフロラシオン青山（東京都港区）

内容：第 19 期（平成 26 年 3 月期）事業報告及び決算報告の承認

理事の選任

◆ 第 3 回理事会

日程：平成 26 年 6 月 24 日（火） 場所：ホテルフロラシオン青山（東京都港区）

内容：代表理事の選定

◆ 第 4 回理事会

日程：平成 27 年 3 月 10 日（火） 場所：航空会館（東京都港区）

内容：平成 27 年度（第 21 期）事業計画・収支予算・資金調達及び設備投資の見込みを
記載した書類の承認

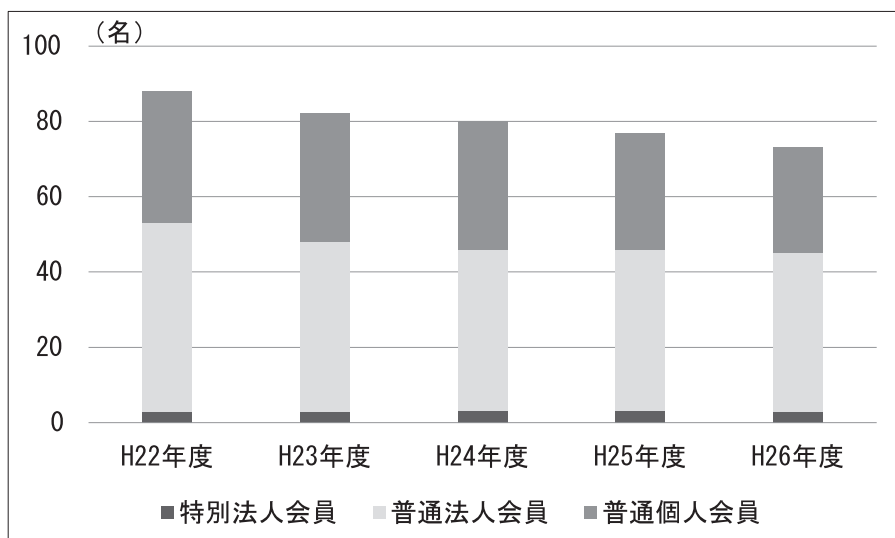
第 19 回環境文化講演会開催計画の決定

代表理事の職務執行状況報告等

2. 会員数

平成 27 年 3 月期末の本機構会員数は 73 名であった。内訳は、特別法人会員 3 名、普通法人会員 42 名、普通個人会員 28 名である。

過去 5 年間の会員数の推移は、次のとおりである。



過去5年間の会員数推移

II 公益目的事業 1

環境の保全に配慮した繊維製品の再生利用等を通じて、環境への負荷ができる限り低減される生活文化の創造に寄与する事業

環境の保全に配慮した繊維製品等の再生利用に関する諸事業の実施を通じて、廃棄物の適正処理及び資源の有効な利用の確保を図り、もって、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される生活文化の創造に寄与することを目的に、次のとおり5つの事業を実施した。

1. 環境保全に配慮したユニフォームのリサイクルシステム提供事業（リサイクルマーク事業）

(1) リサイクルマークの交付

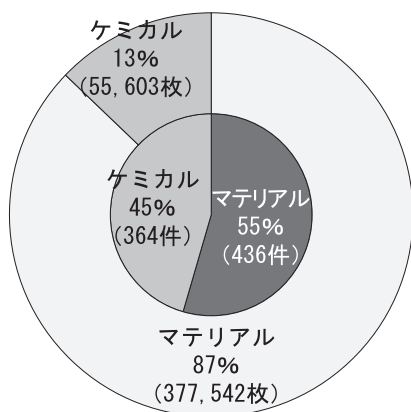
平成26年度に交付したリサイクルマークは、433,145枚(800件)であった。内訳は、マテリアルリサイクルマークが377,542枚、ケミカルリサイクルマークが55,603枚である。



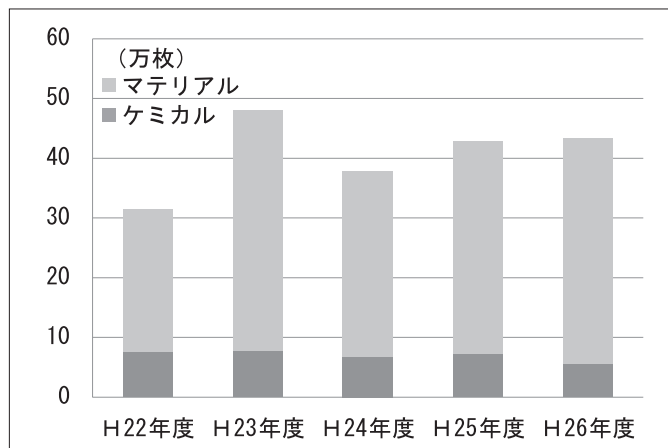
マテリアルリサイクルマーク



ケミカルリサイクルマーク



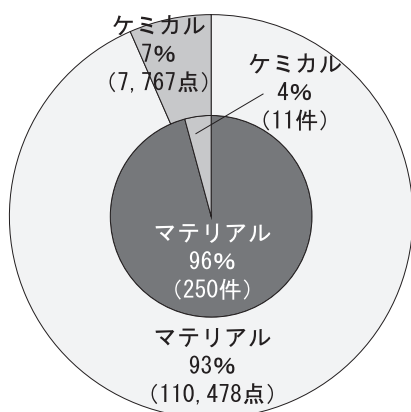
平成26年度交付実績



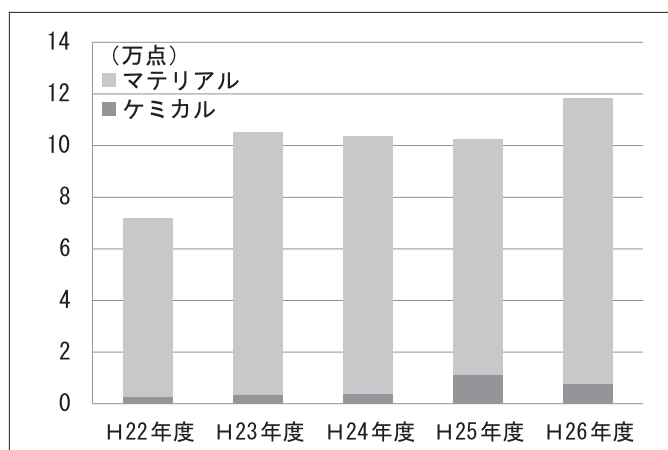
過去5年間の交付推移

(2) 使用済みユニフォームの回収

平成26年度に回収した使用済みユニフォームは、118,245点(261件)であった。内訳は、マテリアルリサイクルマークのものが110,478点、ケミカルリサイクルマークのものが7,767点である。



平成26年度回収実績



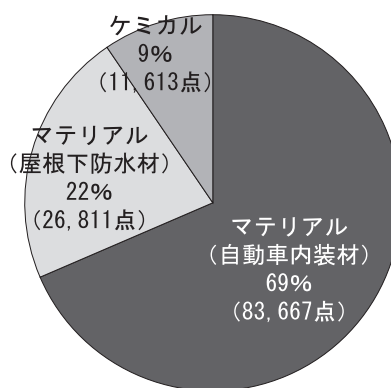
過去5年間の回収推移

(3) 使用済みユニフォームのリサイクル処理

平成26年度にリサイクル処理した使用済みユニフォームは、122,091点(約64.4t)であった。

このうちマテリアルリサイクル処理は、110,478点(約56.9t)であり、自動車内装材に83,667点(約48.9t)、屋根下防水材に26,811点(約8t)再生した。

また、もとの原料に還元するケミカルリサイクル処理は11,613点(約7.5t)であった。



平成26年度リサイクル処理実績

(4) リサイクルマーク事業管理委員会の開催

本委員会は、リサイクルマーク事業における重要事項の協議やトラブル時の対応を行っている。平成 26 年度は、下記のとおり開催した。

◆ 第 1 回委員会

日程：平成 26 年 6 月 4 日（水） 場所：航空会館（東京都港区）

内容：平成 25 年度広域認定報告書の承認、平成 25 年度広域認定変更状況の報告

◆ 第 2 回、第 3 回、第 4 回委員会

日程：平成 26 年 8 月 5 日（火）、11 月 7 日（金）、平成 27 年 1 月 26 日（金）

場所：株式会社チクマ（東京都中央区）

内容：リサイクルマーク事業ユニフォームリサイクルシステムへの新規再生利用方法導入に関する検討・協議

(5) リサイクルマーク事業管理業務の実施

◆ 消費税法改正に伴う基本マニュアルの改訂

消費税法改正に基づく平成 26 年 4 月 1 日からの消費税率引き上げに伴い、「リサイクルマーク事業 ユニフォームリサイクルシステム 基本マニュアル」を改訂した。

◆ 広域認定処理状況の報告

本機構が取得している環境省広域認定の報告義務に基づき、平成 26 年 6 月、平成 25 年度マテリアルリサイクル処理状況について、右のとおり環境省へ報告した。

報告内容	数量
再生品の量	44.1138t
再生処理に伴い生ずる廃棄物の量	0.0153t
総重量（使用済みユニフォームの量）	44.1291t

※ケミカルリサイクルは東レ㈱の広域認定のため対象外

◆ リサイクルマークの商標管理

本機構はリサイクルマークの商標登録を行っている。平成 26 年度は、外部から印刷物等へのリサイクルマーク掲載による商標使用申請を 4 件承認した。また、リサイクルマーク交付における転写マークの商標使用申請を 1 件承認した。

◆ リサイクル処理に関する証明書の発行

本機構は、将来におけるリサイクル処理を証明する「リサイクル処理事前証明書」、すでに実施したリサイクル処理を証明する「リサイクル処理事後証明書」を会員からの申請により発行している。平成 26 年度は、事後証明書を 120 件発行した。

◆ 会員への回収・リサイクル処理状況の報告

本機構は、回収した使用済みユニフォームのリサイクル処理状況について会員に報告するべく、毎年 4 月に「回収・リサイクル処理状況報告書」を送付している。平成 26 年度は、平成 25 年度中に回収・リサイクル処理を行った使用済みユニフォーム 102,258 点について対象法人会員 21 者へ報告した。

◆ 未回収ユニフォームの回収促進

本機構は、未回収ユニフォームの回収を促進するため、会員が提出したリサイクルマーク交付申請書の情報に基づき、回収予定日が到来した未回収ユニフォームを通知するべく、毎年4月に「着用終了予定日経過通知書」を送付している。平成26年度は、平成25年度中に回収予定日が到来した未回収ユニフォーム267,347点について対象法人会員26者へ通知した。

◆ 回収促進チラシの作成

平成26年6月、リサイクルマーク事業により多くの方々に参加していただく契機とするとともに、使用済みユニフォームの回収・リサイクル処理の促進を図ることを目的に、ユニフォームリサイクルシステムと具体的な回収方法を分かりやすく紹介した着用ユーザー向けの回収促進チラシを作成、配布した。

ユニフォームをリサイクルしよう!

職場で着ているユニフォームにこのマークがついていませんか？
これは付いているユニフォームが、リサイクル可能なことを証明するリサイクルマークです。
着終わった時に、全国どこからでも無料で回収しリサイクルできます。

どんなユニフォームのどこについているのか

リサイクルマーク付きユニフォームは、企業の制服や、オフィスの事務服、工事現場の作業服、工場の白衣など様々な職種で着用されています。
内側に縫い付けていたり、タグとして縫い付けていたりしますので、このマークが付いているユニフォームは、着終わったらずらざらリサイクルしてください。

ユニフォームをリサイクルに出すには

STEP1 段ボールに荷造りする
お手元にある段ボールに使用済みユニフォームを詰めましょう。段ボールのサイズ等は問いませんが、できるだけ1箱にたくさん詰め積載を減らすよう心がけてください。
リサイクルマークのついていないユニフォームは、入れないでください。

STEP2 回収を依頼する
ユニフォームを購入した際の納入業者に回収を希望する日時、場所、ユニフォームの点数等を連絡してください。
納入業者が分からない場合は、下記事務局までお問い合わせください。

STEP3 荷物を引き渡す
ご指定の日時、ご指定の場所に運送業者が荷物を引き取りに行きます。
送り状は必要ありませんので、封をした荷物をそのままお預けください。

【お問い合わせ先】 TEL: 03-5511-7331 FAX: 03-5511-7330
公益社団法人 環境生活文化機構 事務局 E-mail: elco_in@elco.or.jp http://www5.onn.ne.jp/elco/

回収促進チラシ表面

ユニフォームリサイクルシステムとは

このリサイクルシステムは、製造段階でリサイクル可能と確認された環境保全配慮型ユニフォームに、(公社)環境生活文化機構が交付する「リサイクルマーク」を縫着することで、製造から販売・供用・回収及び再生利用等までユニフォームの生涯管理を行い、環境省の広域認定に基づいて使用済みユニフォームを適正に再生利用するシステムです。

リサイクルシステムのフロー

1. 各企業は環境保全配慮型として製造されたユニフォームに「リサイクルマーク」を縫着する。2. ユニフォームの製造・販売・供用・回収。3. ユニフォームの回収。4. 回収したユニフォームを回収センターに運送する。5. 回収センターで回収したユニフォームを再生利用する。

ユニフォームリサイクルを行うと

- ゴミの減量化: ゴミとして捨てず、資源としてリサイクルすることでゴミの排出量を減らす。
- CO₂の発生削減: ゴミとして捨てず、資源としてリサイクルすることで発生するCO₂の量を削減する。
- 環境意識の高揚: 毎日着るユニフォームをエコ製品にする事で環境意識が高まる!
- 物質としての長寿命化: リサイクルで新しいものに作りかえることで、再びの製造工程、廃棄としての寿命が延びる!

なぜ回収を無料でできるのか

ユニフォーム製造時(リサイクルマーク縫着時)に支払う料金に、すでにそのユニフォームの回収・リサイクル処理費が含まれているからです。

回収促進チラシ裏面

2. 環境保全に配慮した生活文化に関する調査研究事業

(1) 八王子市高尾周辺地域住民による循環型地域づくりのための人材育成事業

◆ 活動の目的・概要

本事業は、大量生産・大量消費・大量廃棄の生活様式を循環型地域へ転換することを目的に、地域住民が循環型社会実現の担い手となる次世代の子どもたちを対象に自然を活用した環境教育を実践することで、循環型地域づくりのために自発的に取り組める人材を育成し、さらに、こうした人材が他地域で活動できるようなプログラムを策定するものである。

東京都八王子市の裏高尾をフィールドとした3年計画で、平成24年度は、里山をフィールドとした効果的な環境教育プログラムを実施するために、各地の事例についてヒアリング調査を実施し、その検証結果をもとに、八王子市の里山をフィールドとした循環型地域づくり環境教育プログラムを策定した。そして、平成25年度は策定したプログラムを活用したモデル事業を実施するとともに、そのプログラムを実践できる地域リーダーを育成した。

3年目の平成26年度は、モデル事業の実施成果をもとに環境教育ESDプログラムを改訂し、地域リーダーを育成した。また、本事業を紹介するホームページの公開や、外部イベントへの参加により本事業の成果を広く一般へ普及した。

なお、本事業は平成26年度地球環境基金助成活動として実施した。

地球環境基金 独立行政法人環境再生保全機構が設置する国と民間の双方からの資金拠出に基づいた基金。その運用益等を以って内外の民間団体（NPO・NGO）による環境保全活動への助成その他の支援を行う。

◆ プログラム策定委員会開催及びESD環境教育プログラムの改訂

平成25年度のモデル事業の成果をもとに、プログラム策定委員会を平成26年8月と12月に開催し、ESD環境教育プログラムを改訂して「八王子市高尾周辺の里山におけるESD環境教育プログラム（インタープリター養成編）」をまとめた。

複数あるプログラムから次の4つのプログラムを選出し、国立教育政策研究所教育課程研究センターがESDの視点に立った学習指導の枠組みとして提示する6つの概念（多様性・相互性・有限性・公平性・連携性・責任制）と7つの能力（批判・未来・他面・伝達・協力・関連・参加）に基づいて、初年度に作成したプログラムから、さらに地域リーダーの資質として必要となる思考力や問題解決能力といった人間性の育成に言及した汎用性のあるプログラムに改訂した。

■ 森林プログラム—この里山にはどんな動植物が生きているかな？

里山に棲む動植物をとおして、地球環境において木が果たしている役割や、動植物が共生する仕組みを学ぶ。また、里山の動植物について調べたことを地域住民に発信することで、地域環境に興味を持ち、地域の自然を守ることの大切さや難しさ、小さくても自分にできることがあることを知り、自然と人間が共に生きることを考える。

■ 里山から食を考えよう

木の実やキノコ、山菜、獣肉、さらに人々が食の煮炊きに利用する薪や炭などを生み出す里山は食の原点であり、管理された里山は保水性も高く、地中の養分を十分に含んだ湧き水は、人々の生活を支え、また山から川へ、川から海へと豊かな養分を運び、生き物を育んできた。里山をとおして、このような食の連鎖について学び、現在の食の在り方がグローバル化する中で、貧困や紛争につながっているという問題意識の発見のきっかけに結びつけていく。

■ 里山の草木を活用して布を染めてみよう

八王子市はもともと養蚕や織物で栄えた歴史を持つ。今も継承されている伝統的産業について、里山で実際に布を染めるという経験を通じ、人がなぜ布を織り、染め、

身に着けるといふ行為をするのか、自ら主体的に考え、調べることを通じて里山の魅力を理解するとともに、環境にやさしい産業の創造行動に結びつけていく。

■ 間伐材を活用して「My 箸」を作ろう

箸や椀、ざる、お櫃をはじめとした食具、さらに住の基本たる家屋など、日本人は里山から産出した木竹製品に頼って生活してきた。現在では安価な既製品が手に入り、里山の資源を利活用することもなくなりつつある。人の手を離れて適正な管理がされなくなった里山は荒廃し、地域の貴重な財産の保全が危機に瀕している。こうした諸問題について、間伐材からの「My 箸」作りというプリミティブな作業により、地域の環境問題、ひいては地球環境規模の問題意識まで掘り下げる端緒とする。

なお、本プログラムは、環境省の「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係るESDの視点を取り入れた環境教育プログラム」に応募し、採用された。

◆ 対象地域における人材育成

本事業では、対象地域である高尾において、本モデル事業や継続的に月2回程度行っている里山の整備等を通じ、地域住民の自律的な活動の支援並びに循環型地域づくりのために自発的に取り組める人材の育成を行った。また、事業終了をもって、地域リーダーとして育成された3名の育成結果について、次のとおり6つの評価軸に対する5段階の評価を行った。

■ 対象者

A氏（68歳、男性、里山整備経験あり） B氏（64歳、男性、里山整備経験なし）
C氏（40歳、男性、里山整備経験なし）

■ 評価結果

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	へ
A氏	B	A	B	C	A	A
B氏	C	B	B	C	B	C
C氏	D	B	B	D	B	D

【評価軸】

- イ. 基礎的な動植物に関する知識の有無
- ロ. 里山整備にあたっての基礎的技術の有無（道具の使用方法や伐採方法等）
- ハ. ESD環境教育という考え方の理解の有無（従来型の環境教育との相違点等）
- ニ. プログラムの立案能力の有無
- ホ. プログラム実施にあたってのインタープリターとしての能力の有無
- へ. 地域との連携・調整能力の有無

- ・体験活動を主導することができるようになり、今後はより積極的にイベントの企画運営などへ参画し、また講師派遣など他地域での活躍が期待される。
- ・動植物に関する知識については、市販の図鑑を基準とした評価である。1年間を通じて専門家による生態系調査に同行した住民A氏とそうではない住民C氏では大きな差が見取れる。今後の課題として能力向上に向けた取り組みの継続は必要であるが、現状では相当高度な知識を要求することは困難と思われる。

- ・ ESDという考え方については、この3年間で各人ともに相当の認識レベルに達している。しかし、プログラムの立案能力まで要求するレベルまでは達していない。
- ・ 対象者3名のうち1名は現役で働く住民で、2名はすでに一線からリタイアした住民であった。本業の有無により自由に使うことのできる時間が違うことから、地域住民との連携に格差がでる側面もあった。

本事業を通じて、インタープリターとしての能力は、場数を踏み経験を重ねることの他に、個々人の潜在的能力に帰属する面が大きいと感じられた。対象者の適性を的確に引き出すため、今後はより多角的な視点、多彩な活動の充実を図りつつ、育成者としてのノウハウの蓄積を図りたいと考える。

また、地域のリーダーとしては、大学生等若年層の掘り下げが必要と考えるが、現段階の社会構造下においては相当困難である。しかし、ESDという概念が低炭素なライフスタイルへの変化を求めていること、また本事業が里山という身近な環境の維持・保全を希求すること等に鑑み、若年層へのこういった考え方の浸透を持続的に継続することが重要であると考えます。

◆ 対象地域における体験活動等イベントの開催

平成25年度に実施したモデル事業に引き続き、学校や団体への誘致活動を行い、下記のとおり教育関係機関の受入れた体験活動・ワークショップ等を開催した。他団体との関係構築を進めたことで、ワークショップ開催など多彩な活動を行うことができた。

■ 学芸大学附属世田谷小学校

日程：平成26年6月30日（月）、7月1日（火）

対象者：小学校4～5年生 70名

活動内容：人工林の間伐体験・木材の活用についての学習・間伐材のMy箸作り

■ NPO法人ワンダートンネル

日程：平成26年8月2日（土） 対象者：小学校中学年～中学生 13名

活動内容：森にあるものを使っての造形教育

■ NPO法人共存の森ネットワーク

日程：平成26年8月12日（火）～13日（水） 対象者：高校生 70名

活動内容：人工林についてのレクチャー・枝打ち技術の体験等

■ 生態計画研究所

日程：平成26年8月23日（土） 対象者：一般人 20名

活動内容：生態系等に熟知した専門家の招致による基本知識及びインタープリターの育成基礎講座

◆ 外部イベントにおける広報活動

本事業における取り組みや作成したESD環境教育プログラムを紹介するとともに、イベントの募集案内など今後の対象地域（高尾）における活動をさらに普及するため、外部のイベントに参加し広報活動を行った。

平成26年10月、拓殖大学「石川ゼミ」「高尾山学」と連携し、大学祭におけるシンポジウムへ参加し、学生に向けて本事業の取り組みを紹介した。

また、平成26年11月、持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議のサイドイベント「未来へつなごう！おこやまESDふれあい広場（岡山県岡山市）」「あいち・なごやESD交流フェスタ（愛知県名古屋市）」において、本事業の取り組みについて紹介するパンフレットを配布し、活動PRを行った。



あいち・なごやESD交流フェスタの様子

◆ ホームページの作成

本事業の取り組みについて紹介するホームページ「高尾100年の森～循環型地域づくりの人材育成事業～」を作成、公開した。

高尾100年の森～循環型地域づくりの人材育成事業～

HOME | 活動情報 | 活動紹介 | 環境教育プログラム | About us | Photo Gallery | Links

HOME

高尾100年の森
～循環型地域づくりの人材育成事業～について

東京都八王子市の裏高尾をフィールドとし、大量生産・大量消費・大量廃棄の生活様式を循環型地域へ転換のため、地域住民による次世代の担い手となる子どもたちを対象とした都市近郊の里山環境教育を通して、循環型地域づくりのために自発的に取り組める人材を育成することを目的として活動をおこなっています。

循環型社会を後生に伝える人づくり

里山（55ha）を所有する企業、その里山の維持管理を担っているNPO法人及びボランティアの地域住民とのパートナーシップにより、地域住民目らが環境教育を實踐し、もって循環型地域づくりのリーダーとして地域で活躍できる人材育成を目的に、里山を通じ循環型社会構築につながる人づくり（ESD）プログラムを實踐。八王子市内及び近隣自治体の教育関係機関による協賛の活用を實現するとともに、広く多摩地区及び近隣県の市区町村への波及効果を目指しています。

この事業は独立行政法人環境再生保全機構の地球環境基金助成を受けています。

地球環境基金

最新情報

- お知らせ
高尾100年の森～循環型地域づくりの人材育成事業～ホームページが出来ました。
[詳しくは→](#)
- イベントのご案内
森の標物を使った草木染め教室を行います。
[詳しくは→](#)
- 土曜日定例作業
2月28日（土曜日）は定例作業日です。主な作業はフィールドの草木整理とチップ作業を予定しています。
[詳しくは→](#)

ホームページ「高尾100年の森～循環型地域づくりの人材育成事業～」

(2) 南九州における 900ml 茶びんのリユースシステム事業フォローアップ

環境省の循環型社会実証事業(※)として、本機構が新規に企画・製造し、市場に出荷された 900ml (茶) 統一規格びんは、主として焼酎の充てんに使用されている。この 900ml (茶) 統一規格びんは、対象地域である南九州を中心に、現在も順調に出荷本数・回収本数を伸ばしており、平成 26 年度の出荷・回収実績は、下記のとおりである。

	全 国	九州内のみ	平成 16~26 年度総数
出荷本数	1, 197, 978 本	662, 455 本	17, 344, 080 本
回収本数	541, 541 本	520, 217 本	6, 834, 953 本
回収率	45.20 %	78.53 %	39.41 %

※事業名：平成 15・16 年度循環型社会形成実証事業「南九州における 900ml 茶びんの統一リユースシステムモデル事業」／平成 17 年度フォローアップ事業

3. 循環型社会形成推進功労者表彰事業

この表彰は、繊維リサイクルの推進を始めとした循環型社会構築に関する 3 R (リデュース・リユース・リサイクル) 活動に積極的に参加し、環境保全に多大な功労のあった個人・企業・団体に対し、その功労を讃えることを目的としている。

(1) 受賞者の公募・決定

平成 26 年 4 月 1 日～4 月 30 日、自薦他薦を問わず受賞候補者を一般公募した。

平成 26 年 5 月 28 日、審査委員会での審査の結果、受賞候補者 3 者が選出された。これを受け、平成 26 年 6 月 4 日の理事会において、平成 26 年度受賞者を「木田 豊氏」「タキゲン製造株式会社」「ナカノ株式会社」の 3 者に決定した。

(2) 平成 26 年度受賞者

◆ 木田 豊氏

特定非営利活動法人日本ファイバーリサイクル推進協会理事長。

永年にわたり衣服 3 R の研究・啓発をすすめ、素材メーカー、川中、流通、静脈産業、行政、学界と幅広く働きかけてきた。教育へのサステイナブル思考の取りこみを提言し、環境へ配慮するデザイナー育成のため夜学形式の「リクチュール塾」を開講するなど、繊維リサイクル推進に向け積極的に取り組んでいる功績により受賞。

◆ タキゲン製造株式会社

産業用錠前・キースイッチ・取手類等の産業用金物・工業用金物の直販メーカー。

平成 16 年に ISO14001 を取得し、平成 18 年から自社製品を独自の環境基準をクリアするグリーンマーク商品の拡充を図ることで環境保全に尽力しており、現在標準品の 9 割(約 7,000 品目)が対応している。また、同社職員の制服に本機構のユニフォームリサイクルシステムを活用し、日本支社のみならず海外支店社員の制服にもリサイクルマーク付ユニフォームを採用し、積極的に環境保全の取り組みを進めている功績により受賞。

◆ ナカノ株式会社

古着等の繊維リサイクル及び作業用品の販売を行う老舗企業。

創業以来 80 年、一貫して故繊維（古着・古布・繊維屑）のリサイクルに携わり、故繊維リサイクルの普及発展、啓発活動に尽力している功績により受賞。集計を取り出した平成 6 年から平成 25 年までの繊維製品の回収実績は 17 万 t になる。また、リサイクル手袋「特殊紡績手袋よみがえり」は発売を開始した平成 21 年から平成 26 年 4 月までの累計販売数は約 160 万双（古着約 75t）にのぼる。

(3) 表彰式 ※詳細は、次項 4-(2) に記載。

日程：平成 26 年 9 月 3 日（水） 場所：ホテルフロラシオン青山（東京都港区）

4. 講演会・研修会・シンポジウム等開催事業

(1) 第 18 回環境文化講演会

毎年 6 月に環境月間実施行事として、環境保全に関する生活文化および社会経済システムに関する知識の普及啓発を目的に、地球環境や循環型社会に関する幅広いテーマについて、高度の学識と豊富な経験を持つ有識者を招き、環境文化講演会を開催している。

平成 26 年度は下記のとおり開催し、当日は一般市民を含め約 50 名の参加があった。

日 程：平成 26 年 6 月 24 日（火）

場 所：ホテルフロラシオン青山（東京都港区）

講 師：環境省大臣官房審議官 鎌形 浩史氏

演 題：地球温暖化対策について

講演は「地球温暖化対策」をテーマに、地球温暖化問題に関する最新の科学的知見を検証した IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第 5 次評価報告書をもとに、疑う余地がないという地球温暖化の深刻な状況を説明し、懸念される将来に向けて私たちの取り得る政策や選択肢について紹介する内容であった。

講演の中で鎌形氏は、これまで行ってきた温室効果ガスの排出抑制など温暖化を緩和させる取り組みを今後より一層すすめると同時に、一定の温暖化を前提に海面上昇に備えた海岸対策をとるなど、温暖化の影響に対して適応するための取り組みを行う必要性を訴えた。



環境省大臣官房審議官 鎌形 浩史氏



鎌形審議官による講演の様子

第18回環境文化講演会

日時 平成26年 6月24日(火) 15:00~16:30

内容 演題 最近の環境行政の課題について
講師 鎌形 浩史氏(環境省大臣官房審議官)

◆ 講師 Profile ◆

- 昭和59年4月 環境庁入庁
- 平成14年7月 環境省大臣官房政策評価広報課広報室長
- 平成16年7月 環境省総合環境政策局環境経済課長
- 平成19年7月 内閣官房内閣参事官(内閣官房副長官補付)
- 平成21年7月 環境省地球環境局総務課長
- 平成23年7月 環境省大臣官房会計課長
- 平成24年0月 環境省大臣官房審議官(総合環境政策局担当)

住所: 東京都港区南青山4-17-58
TEL: 03-3403-1541

(アクセス) 表参道駅A4出口徒歩約6分
■東京メトロ銀座線
■東京メトロ千代田線
■東京メトロ半蔵門線

場所 ホテルフロラシオン青山(2F芙蓉西)

〒106-0045 東京都港区南青山4-17-58

〒106-0045 東京都港区西新橋1-20-10

参加費 無料 ※参加をご希望の方は、裏面の申込書をご記入の上、6月20日(金)までにFAXまたはメールでお申し込み下さい。

主催: 公益社団法人 環境生活文化機構
TEL: 03-5511-7331 千105-0003 東京都港区西新橋1-20-10 サンライズ山王ビル4F
FAX: 03-5511-7336 http://www5.ocn.ne.jp/elco/ E-mail: elco_in@trust.ocn.ne.jp

案内チラシ

諸企業や家庭レベルでの 環境対策を推奨

(公社)環境生活文化機構

講演を行った鎌形氏

(公社)環境生活文化機構は6月24日、環境省大臣官房審議官の鎌形浩史氏を講師に招き第18回環境文化講演会を開催、会員企業や報道関係者など約50人が参加した。

鎌形氏はIPCC(気候変動に関する政府間パネル)の報告書をもとに、地球温暖化の最新状況などを報告、温暖化については疑う余地がなく、1880~2012年の期間に世界平均地上気温が0.85℃上昇している現状を説明した。その上で、環境への影響を最小限にするためには2℃以内に抑える必要があり、効果的な施策がない場合、あと約30年で2℃の気温上昇を超えてしまうと

危機感を示した。

これに対して、鎌形氏は諸産業や各家庭レベルで対策を講じる必要性を説き、設備投資などを通して環境対策に取り組む企業・家庭を対象とした国の金融支援施策を紹介。また、国際レベルでの対策として、来年末にパリで開催される第21回締約国会議(COP21)にも言及した。

同会議では、2020年以降の温室効果ガス排出削減の新たな枠組みを決定する予定だ。

月刊廃棄物(平成26年8月号)

(2) 2014 環境フォーラム

繊維リサイクルの推進をはじめとした循環型社会構築と環境保全に関する生活文化及び社会経済システムに関する知識の普及啓発を目的に「2014環境フォーラム」を下記のとおり開催し、当日は一般市民を含め約70名の参加があった。

日 程：平成26年9月3日（水）

場 所：ホテルフロラシオン青山（東京都港区）

プログラム

《第一部》平成26年度循環型社会形成推進功労者表彰式

受賞者：木田 豊氏

タキゲン製造株式会社

ナカノ株式会社

《第二部》特別講演会

講師：環境省総合環境政策局長 小林 正明氏

演題：東日本の復興と環境政策

第一部の平成26年度循環型社会形成推進功労者表彰式では、本機構の広中和歌子会長から受賞者に表彰状が贈呈された。その後、来賓の環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長 鎌形 浩史氏から挨拶をいただき、受賞者の特定非営利活動法人日本ファイバーリサイクル推進協会 理事長 木田 豊氏、タキゲン製造株式会社 常務取締役 古岡 弘好氏、ナカノ株式会社 代表取締役社長 中野 博恭氏から謝辞をいただいた。

また、第二部の特別講演会では、環境省総合環境政策局長 小林 正明氏から「東日本の復興」と題して、福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染の除染作業の現状や中間貯蔵施設設置の状況、さらには環境政策を推進する各種事業、将来の環境問題を背負う人材の育成、そして2020年に開催される東京五輪に向けた環境対策など、環境省が実施する広範な諸政策について東日本の復興を基軸に講演いただいた。



木田氏への表彰状授与



タキゲン製造(株) 古岡常務への表彰状授与



ナカノ(株) 中野社長への表彰状授与



- 前列左から 虫明代表理事、竹馬理事長、広中会長、中野社長(ナカノ(株))、古岡常務(タキゲン製造(株))、木田氏、鎌形部長(環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部)、山本課長(環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課)、奥富代表理事
- 後列左から 長谷川監事、木村監事、外川理事、窪田事業企画室長(ナカノ(株)リサイクル部)、中野会長(ナカノ(株))、田中課長(タキゲン製造(株)総務部 総務課)、西澤氏(タキゲン製造(株)情報開発部 広報課)、濱田社長(泰和(株))、寺田理事、横山監事



小林総合環境政策局長による特別講演の様子

2014環境フォーラム

日時：平成26年**9月3日**（水）14:00～16:20

場所：ホテルフロラシオン青山 2F芙蓉東

参加費 無料

8/29（金）申込締切

参加の申込方法は、裏面をご覧ください。

〈会場所在地〉
東京都港区南青山4-17-58
TEL：03-3403-1541

〈アクセス〉
表参道駅 A 4 出口 徒歩約 6 分
(東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線)

プログラム

第1部 平成26年度循環型社会形成推進功労者表彰式
〈受賞者〉木田 豊氏、タキゲン製造株式会社、ナカノ株式会社

第2部 特別講演会
〈講師〉小林 正明氏（環境省総合環境政策局長）
〈演題〉東日本の復興と環境政策

主催：公益社団法人環境生活文化機構 TEL：03-5511-7331 E-mail：elco.inc@trust.ocn.ne.jp

案内チラシ

環境生活文化機構
功労者3者を表彰
 環境生活文化機構は2014年度の「循環型社会形成推進功労者」としてNPO日本ファイバーリサイクル推進協会理事長の木田豊氏、タキゲン製造(東京都品川区)・ナカノ(神奈川県横浜市)に授賞、このほか都内で開催した2014環境フォーラムで表彰式を行った。(写真)



機構の「ユニフォームリサイクルシステム」の活用、ナカノは創業以来80年をわたる故郷の繊維リサイクル事業が評価された。
 表彰式では受賞者が喜びや今後の意欲を語り、広中和歌子同機構会長と竹馬圭一郎理事長、役員らと記念撮影。続く特別講演会では、環境省総合環境政策局長の小林正明氏が「日本の復興と環境政策」の題で登壇。福島第一原発事故による放射能汚染対策の現状や再生可能エネルギーの導入について説明し、参加者は知識を新たにした。

循環型社会形成推進で

同日、2014環境フォーラムと題し2014年度循環型社会形成推進功労者表彰式と特別講演会を都内で開催。民間業者や市民団体など67人が参加し、繊維リサイクルに取り組み木田豊氏(NPO法人日本ファイバーリサイクル推進協会・理事長)、タキゲン製造(東京都品川区)・ナカノ(神奈川県横浜市)の2社1個人を表彰した。また、特別講演では、環境省総合環境政策局長・小林正明氏を講師に招き、中間貯蔵施設をはじめとする福島県内の除染状況や今後の課題について分かりやすく説明した。

3者3様の繊維リサイクルを展開

循環型社会形成推進功労者表彰式は同機構が毎年取り組んでいる事業で、繊維リサイクルの推進をはじめとする循環型社会構築に関する3R活動に積極的に参加し、環境保全に多大な功労のあった個人・企業、団体を表彰するもの。表彰式では、同機構会長・広中和歌子氏が2社1個人に感謝状を贈呈、それぞれが謝辞を述べた。以下に受賞者を紹介する。
 木田豊氏は、日本ファイバーリサイクル推進協会・理事長として長年衣類の3R研究・啓発に取り組んできた。今年9月からは、リクチュール(ファッション・クリエイターの手によりリペア・リフォーム・リメイクの3Rを、ものづくりに生かす製品タオリティを高めること)を基本にしたデザインナー育成のための「リクチュール塾」を開講。来年1月までに計10回の講座を予定している。
 タキゲン製造は、産業用金物・工業用金物を取り扱う老舗販売メーカーだ。環境生活文化機構のユニフォームリサイクルシステムを活用し、国内支社だけではなく海外支店社員の制服にもリサイクル付ユニフォームを採用するなど、環境保全の取り組みを進めている。
 (本誌・高倉)

除染作業は今年度がピーク

第二部の特別講演では、小林氏が「日本の復興と環境政策」と題して講演。福島県内の除染特別地域における除染状況について、田村市、楢葉町、川内村、大熊町についてはいまだ除染作業中・準備中であることを明かした。「除染作業は今年度がピークになる。できれば昨年度の1.5倍の作業員を確保し、除染作業を加速させたい」と語った。
 (本誌・高倉)

Topic

団体

**繊維リサイクルの功績たたえ
2社1個人を表彰**

(公社) 環境生活文化機構



左から広中会長、中野博慈氏(ナカノ専代表取締役社長)、吉岡弘好氏(タキゲン製造株常務取締役)、木田氏、来賓として迎えられた鎌形浩史氏、山本昌宏氏(環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部部長/企画課長)

5. 環境保全に配慮した生活文化に関する広報・普及啓発事業

(1) 季刊誌「エルコレーダー」の発行

本機構の事業や環境保全に関する情報発信・情報交流によって循環型社会に対する多くの人々の関心を高めることを目的に、季刊誌「エルコレーダー」を4回発行した。内容は、各界の著名人からの環境に関連した話題の提供、本機構の活動報告、本機構法人会員の紹介などである。

第58号（平成26年4月1日発行）

【巻頭】さかなクン インタビュー

「魚を愛し、感謝をしていただく、これが日本の文化です。」

【特別連載】連携で共創する持続可能な未来1

「『地域循環圏』への道筋を具体化する『3R行動見える化』の効果と可能性」

ジャーナリスト・環境カウンセラー 崎田 裕子氏

【連載】

▶ 環境を見つめる人々41 「地域の元気を創る」

立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授 萩原 なつ子氏

▶ エコ&ユニフォーム最前線9 「海外へ、次の世代へ」

ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

【会員紹介 -エルコマインズ】

「『THINK ECO』掲げ、環境対応を拡大」

帝人フロンティア株式会社 繊維素材本部 ユニフォーム部 部長 小笠原 重典氏

【事務局だより】



第59号（平成26年7月18日発行）

【巻頭】第18回環境文化講演会

「地球温暖化対策と狭まっていく選択肢—IPCCレポートをもとに」
環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長 鎌形 浩史氏

【特別連載】連携で共創する持続可能な未来2

「環境回復から復興に向けた、福島『地域力』づくり」

ジャーナリスト・環境カウンセラー 崎田 裕子氏

【事務局報告】

「2014NEW環境展への出展」

「リサイクルマーク事業ユニフォームリサイクルシステム実施状況」

【連載】

▶ 環境を見つめる人々42 「雪だるまの愛は地域を救う！」

立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授 萩原 なつ子氏

▶ エコ&ユニフォーム最前線10 「もっと身近に、カッコよく！」

ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

【RUU -Recycle Uniform Users】住友化学株式会社

【事務局だより】



第 60 号 (平成 26 年 10 月 1 日発行)

【巻頭】2014環境フォーラム 特別講演会

「東日本の復興と環境政策」

環境省総合環境政策局長 小林 正明氏

【特別連載】連携で共創する持続可能な未来3

「再生可能エネルギーで描く社会イノベーションの可能性」

ジャーナリスト・環境カウンセラー 崎田 裕子氏

【事務局報告】「平成26年度循環型社会形成推進功労者表彰式」

【連載】

▶ 環境を見つめる人々43 「1000年先の未来をみつめる」

立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授 萩原 なつ子氏

▶ エコ&ユニフォーム最前線11 「『アップサイクル』に注目！」

ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

【会員紹介 -エルコマインズ】

「すべては『創造』と『挑戦』に通ず」

株式会社ボンマックス 代表取締役社長 外川 雄一氏



第 61 号 (平成 27 年 1 月 1 日発行)

【巻頭】新春対談 岐阜県知事 古田 肇氏・本機構会長 広中 和歌子

「清流の恵みがもたらす、岐阜の活力と未来

— 県民の心をつなぐ『清流の国ぎふ』 —

【特別連載】連携で共創する持続可能な未来4

「情報共有・対話・参加をデザインしたい、高レベル放射性廃棄物の地層処分」

ジャーナリスト・環境カウンセラー 崎田 裕子氏

【連載】

▶ 環境を見つめる人々44 「水と森を見つめる、ゆるキャラ?!」

立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授 萩原 なつ子氏

▶ エコ&ユニフォーム最前線12 「素材力がけん引するエコロジー」

ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

【会員紹介 -エルコマインズ】

「総合力を活かして提案、環境保全を最優先」

オンワード商事株式会社 営業本部 商品部 商品第一部 部長 吉田 哲也氏

【RUU -Recycle Uniform Users】長崎自動車株式会社



(2) 2014NEW環境展への出展

本機構は、ユニフォームリサイクルをはじめとした本機構の諸活動の紹介及び普及啓発を目的に、2014NEW環境展へ出展した。

日程：平成26年5月27日（火）～5月30日（金）

場所：東京ビッグサイト（東京都江東区）

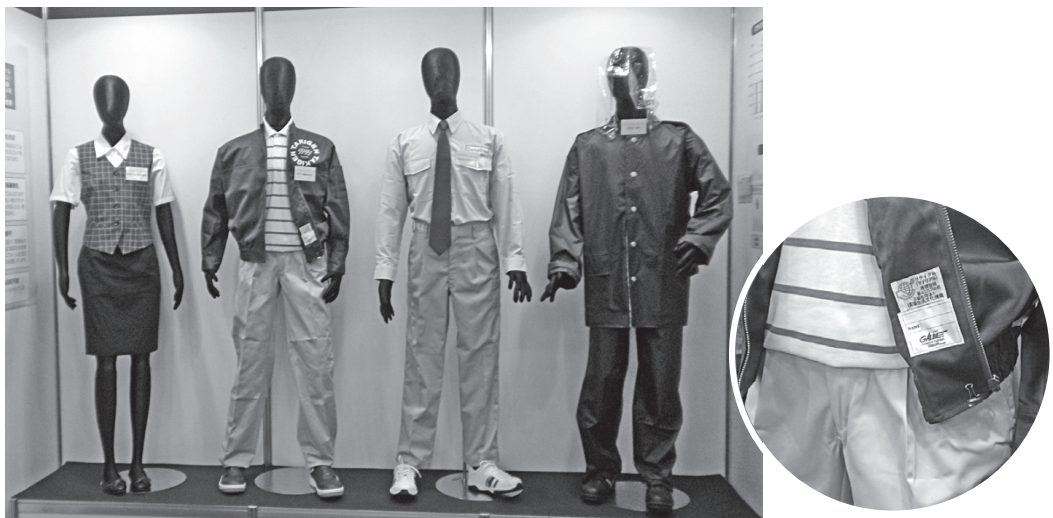
出展ブース：関係団体・学術機関エリア

本機構ブースでは、リサイクルシステムの全体フローやリサイクル行程、これまでの

実績をまとめたグラフを掲示した。また、システムを身近に感じられるよう実際にリサイクルマーク事業のシステムを利用し、ユーザーが着用しているリサイクルマークを付したユニフォームとして、マテリアルリサイクルマーク付ユニフォーム（中央大学生生活協同組合の事務服、タキゲン製造株式会社の作業服、株式会社ベネフレックスの作業服）とケミカルリサイクルマーク付ユニフォーム（官公庁の雨衣）を展示した。

会期中は本機構ブースへ約 250 名の来場者があり、リサイクルを前提としたユニフォームについて関心が集まった。来場者からは「自社でも環境の取り組みを進めたいと考えており、ユニフォームリサイクルに興味があるが、機構のリサイクルシステムにはどのように参加したらよいのか」「企業などのユニフォームがリサイクルされていることを初めて知った」「使用済みユニフォームが、自動車内装材や屋根下防水材に再生されているのは意外だった」などの質問や感想があった。

2014 NEW環境展 環境汚染問題や地球温暖化問題、資源有効活用などの各種課題に対応する、様々な環境技術・サービスを一同に展示・情報発信することにより、環境保全への啓発を行い、国民生活の安定と環境関連産業の発展を目指すことを目的とした日報ビジネス株式会社主催の展示会。同時開催の地球温暖化防止展とあわせて出展社数 617 社、来場者数 16 万 7,210 名。



リサイクルマーク付ユニフォーム（左から、中央大学生生活協同組合・事務服、タキゲン製造(株)・作業服、(株)ベネフレックス・作業服、官公庁・雨衣）



壁面展示



本機構ブースの様子

(3) ホームページ

本機構のホームページでは、定款、沿革、会員紹介、業務及び財務に関する資料、季刊誌「エルコレダー」などを公開している。特にリサイクルマーク事業のページは、リサイクルシステムを利用する会員の利便性を考慮し、必要書類等のダウンロード機能を付加している。平成26年10月、サーバー変更のためホームページを移転した。

(4) 広告の掲載

ダイセン株式会社の「ユニフォームプラス6月号」(平成26年6月発行)に、本機構のリサイクルマーク事業ユニフォームリサイクルシステムの紹介と第18回環境文化講演会案内の広告を掲載した。

ユニフォームは廃棄しないでリサイクルへ

ユニフォームリサイクルシステム

循環型社会形成推進 使用済みユニフォームを再生利用することにより、資源を有効利用し、環境への負荷ができる限る少ない循環型社会の形成を目指すシステムです。

ユニフォームの生涯管理 ユニフォームに縫着するリサイクルマークにより、製造から販売・供用・回収及び再生利用まで、ユニフォームの一生を管理します。

関係法令の遵守 環境省の広域認定を取得し、関係法令に遵守したシステム運営を行い、使用済みユニフォームを適正に回収・リサイクル処理します。

イベント情報 ～第18回環境文化講演会のお知らせ～

【日 程】平成26年6月24日(火)15:00～16:30 【講 師】鎌形 浩史氏(環境省大臣官房審議官)
 【場 所】ホテルロラシオン青山(東京都港区) 【演 題】最近の環境行政の課題について
 【参加費】無料
 ※参加ご希望の方は、本機構のホームページに掲載している参加申込書で、6月20日(金)までにFAXまたはメールでお申し込みください。

公益社団法人 環境生活文化機構
 〒105-0003 東京都港区西新橋1-20-10 サンライズ山西ビル 6F
 TEL: 03-5511-7331 FAX: 03-5511-7336
 E-mail: elco.inc@trust.ocn.ne.jp http://www3.ocn.ne.jp/~elco/

ユニフォームプラス6月号への掲載広告